

アジア平和連帯のために

今年は韓日併呑から100周年になります。

韓日関係において新しい摸索を繰り広げねばならない年であると思います。

ちょうど、我々月進会と日本の金沢市の平和勢力、改革勢力が連帯して新しい韓日関係、進んでアジア平和連帯を摸索していこうという論議が慎重に提起されました。

これまでの間、月進会と金沢市の交流訪問は主として尹奉吉義士の追慕に関連した儀礼的な行事にすぎなかったが、この4月の祝祭期間中に訪問された尹奉吉共の会会員の方々の韓国史についての関心と相互交流の具体的な内容を求める意見が提案されたのです。

月進会と尹義士共の会が新しい交流をどのように開いて行くのか？

アジア平和連帯のために共にどのような努力をするのか？

表から見える韓、日両国の問題は解放後にも終わることなく露になってきました。

特に、過去史問題と教科書問題、独島(竹島)問題は尖鋭した事案になって来ており、非常に難しく複雑な問題です。

しかし、日本平和憲法を守る市民団体と運動家たちの努力によりアジア平和のための新たな動きを感じる事ができます。

特に今年、日本のウオークナイン会員達が韓国を巡礼した事は良い例であり、大きな感銘を受けました。

尹義士共の会会員達も日本平和憲法の改正を反対し、平和憲法を守るために努力しているという事を私達は知っています。また、沖縄米軍基地の移転問題など日米間の軍事関係にも深い関心を持っているという事です。

それは尹義士の世界平和共存思想を実践するための月進会の努力と一致する部分です。韓国は日本よりもはるかに戦争の威脅が強い所です。最近の天安艦事件から多くの事を見せられました。

反戦平和は尹義士精神の実践の確信内容であります。

この様な活動と志向をもってアジア平和連帯のための具体的な相互努力が必要です。最初に、課題だといえる近現代史についての認識の共有は新たな関係定

立の 一のボタンであるはずで。

まず先に歴史についての認識を共有するために東アジア歴史を一緒に学ぶことを提案します。具体的な名称は論議しなければならないが、'尹奉吉平和フォーラム'のような形式になればと考えます。毎年、主題をあらかじめ選定し相互交流訪問 時に定期フォーラムを開いていくのが良いように思えます。

これを契機にして反目や葛藤の先入観を克服し、客観的な歴史的事実、正しい視覚、新しい未来志向、そして共同の理解を広げていく基礎を作っていくのです。

次は、文化交流を具体的で内容があるものに推進して行こうというものです。

東北アジアは歴史文化的な面において同質性が強い所である。現在、月進会では東北アジア平和のための文化交流を最も大きな課題として推進しています。日本はもちろんの事、中国、モンゴル、ロシアまで交流しています。

もちろんまだ初期段階にあります。

しかし、東アジア各国の文化的な理解と交流は新しい東北アジア平和の基礎であり東北アジア平和共同体を作っていく事において必須であります。

今までの単純な交流訪問から具体的な内容を盛り込んだ交流に発展させる事、先ず青少年文化交流のための各国の地域学校間の交流訪問を提案します。

夏休みを利用して、'尹奉吉青少年平和キャンプ'を開催すれば良いと考えます。

今回の訪問を準備しながらいろいろと多くの事を感じました。

もっと早くから実践しなければならない尹義士の平和思想を観念的にだけ考えていたという反省もし、アジア平和連帯のための具体的な悩みが始まりました。

だからこそ今回の訪問とこの集まりは新しい始まりを知らせる大きな意味があるのです。

この様な席を用意して下さった田村教授を初めとする関係者のみなさまに深い感謝を申し上げます。

2010. 6. 2

私)梅軒尹奉吉月進会